

株式会社 中村屋

東証スタンダード

2204



2026年3月期決算説明会

2026年5月15日

2026年3月期決算の総括

- 売上高は微増にとどまったものの、不採算商品の削減や製造コスト低減により、一過性費用を吸収し営業利益は期初計画を大幅に上回り、23.7%増益を達成
- 中華まんの春夏需要の喚起、業務用食品が好調および工場稼働率の平準化の取り組みが奏功しており、上期と下期の収益バランスは改善傾向へ

2027年3月期通期見通し

- 足元のリスクをフルに織り込みながらも、増収増益の達成を目指す
- 具体的には、売上面では商品や販路の絞り込みや主要顧客の販売期間短縮の影響を織り込み、利益面では足元での地政学的リスクに伴う原材料価格の上昇や販売費の増加の影響を加味

企業価値向上に向けた成長戦略・進捗状況

- 中華まんの春夏需要創造や販路拡大、業務用食品の取引先拡販、高付加価値商品の提供などにより、収益改善を伴いながらの売上・利益の成長を目指す
- 法人向けの新規事業モデルを立ち上げ、今後に向けた積極策を展開

1. 2026年3月期決算概要
2. 2027年3月期通期見通し
3. 企業価値向上に向けた成長戦略・進捗状況について

2026年3月期 決算概要

新宿 中村屋

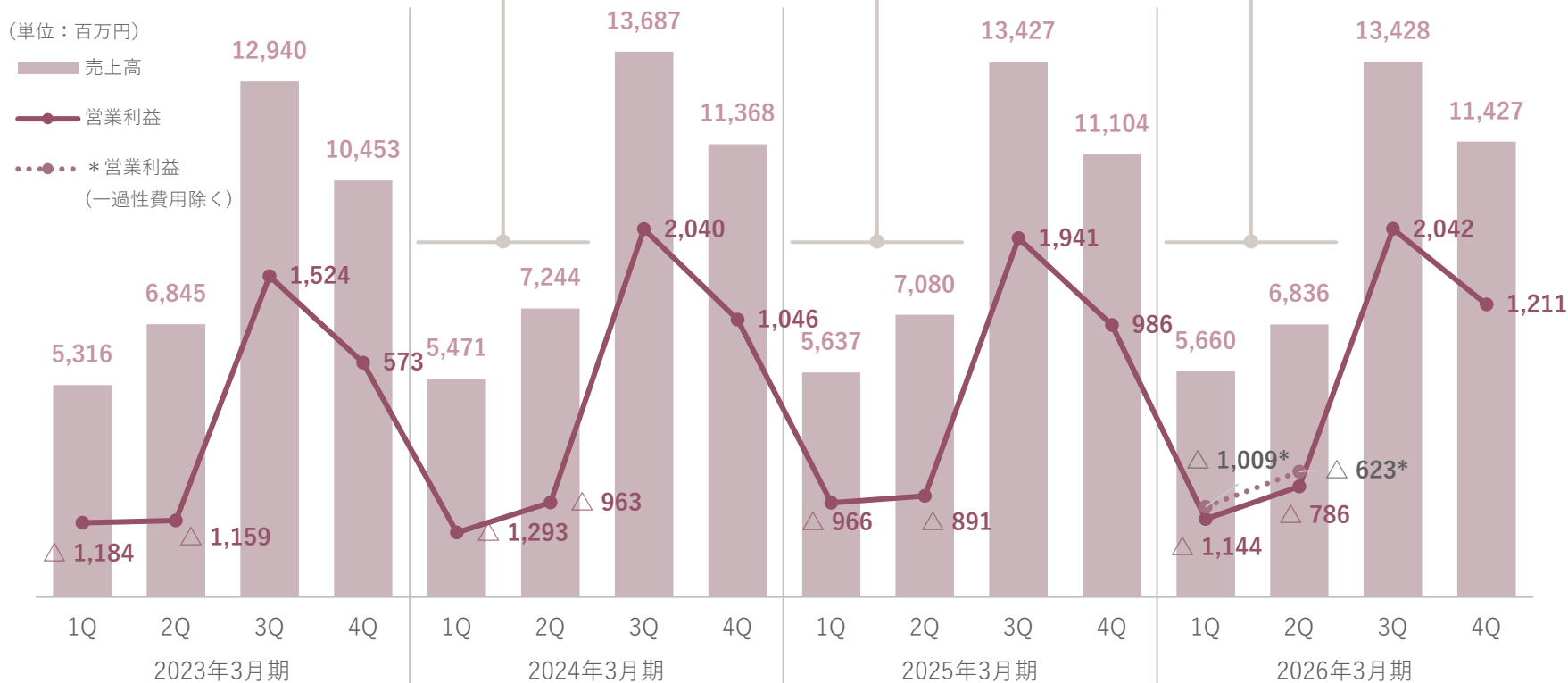
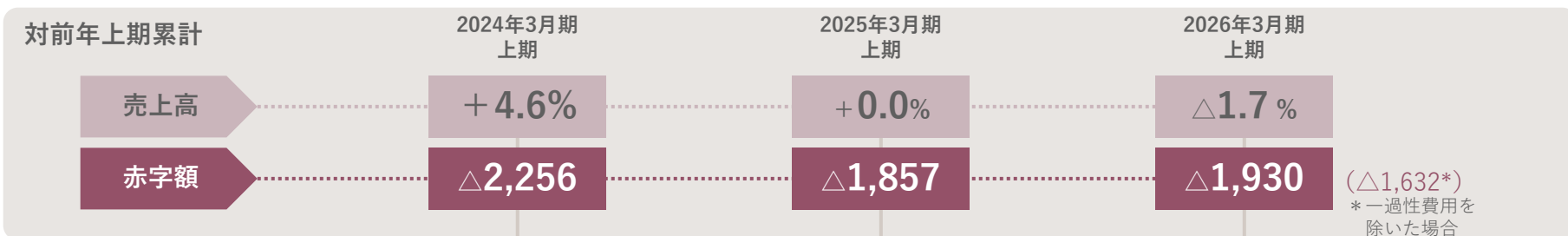
変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

- 売上高は中華まんの堅調、業務用食品の取引先拡大により、菓子事業の見直しの影響を吸収し微増収
- 営業利益は食品事業が牽引、不採算商品の絞り込み、工場稼働率の平準化効果もあり、一過性費用（5.5億円）を吸収して、期初計画を大幅に上回る営業利益および経常利益の増益を達成

(単位：百万円)	2025年3月期	売上高比率 (%)	2026年3月期	売上高比率 (%)	前年比 (%)	期初計画 (5月15日)	修正計画 (3月24日)
売上高	37,248	100	37,351	100	+0.3	37,700	37,300
売上総利益	13,699	36.8	13,977	37.4	+2.0	—	—
販売費及び一般管理費	12,628	33.9	12,654	33.9	+0.2	—	—
営業利益	1,070	2.9	1,324	3.5	+23.7	660	1,200
経常利益	1,277	3.4	1,599	4.3	+25.2	860	1,450
当期純利益	885	2.4	918	2.5	+3.7	520	880

四半期決算の推移

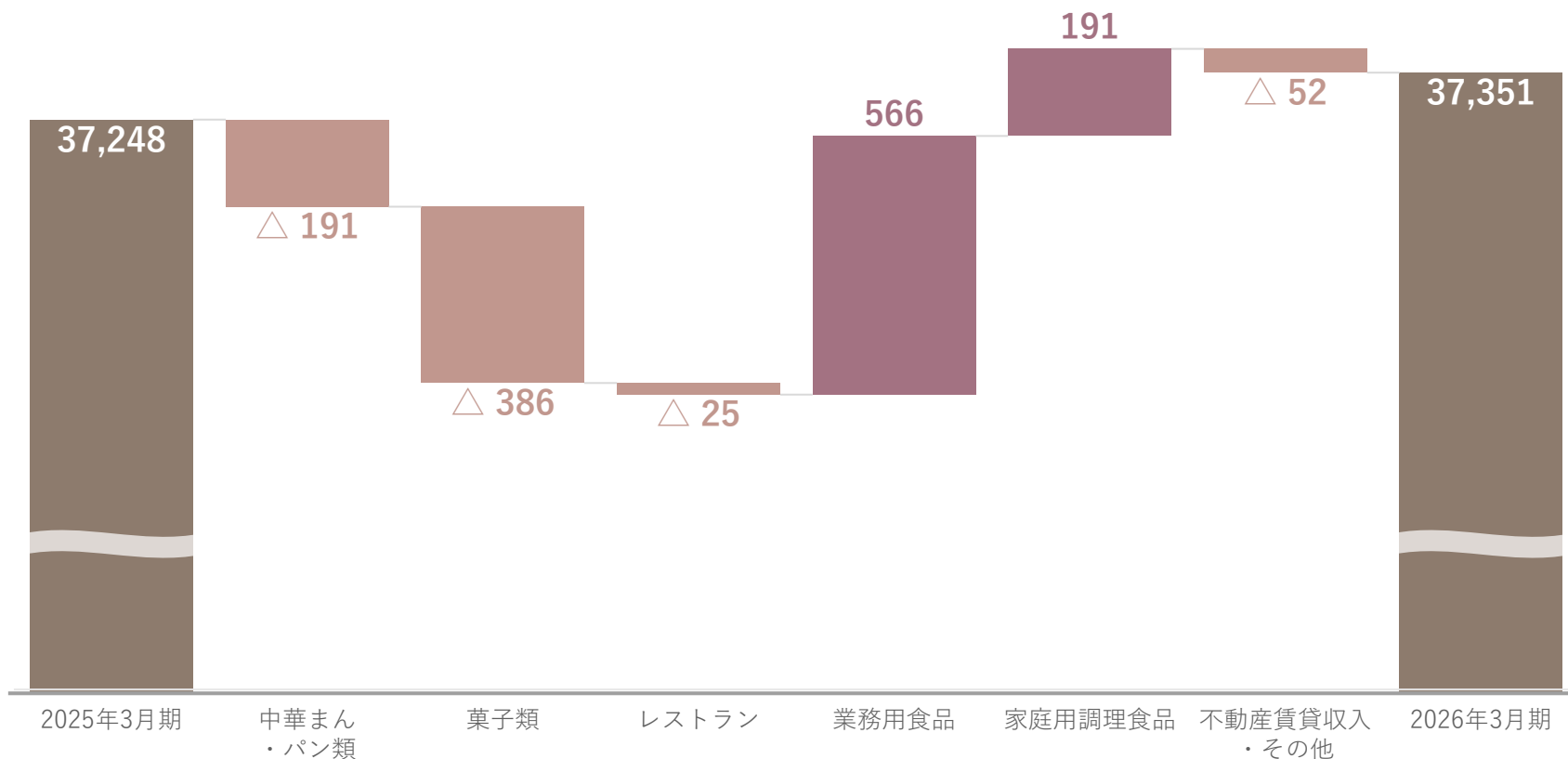
- 中華まんの春夏需要の創造や不採算商品の削減を推進、年間の稼働率平準化を進める
- 2026年3月期は一過性費用の発生を除き、引き続き上期の赤字幅の縮小が着実に進む



売上高増減要因分析（前年比）

- 中華まんは堅調であったが、パン類縮小により減収、菓子類ではデイリー菓子が伸長も歳末ギフトや季節菓子の戦略的な絞り込みにより減収
- 業務用食品は小売り大手との取り組み深化で好調を続け、家庭用調理食品は品揃え強化で増収を確保

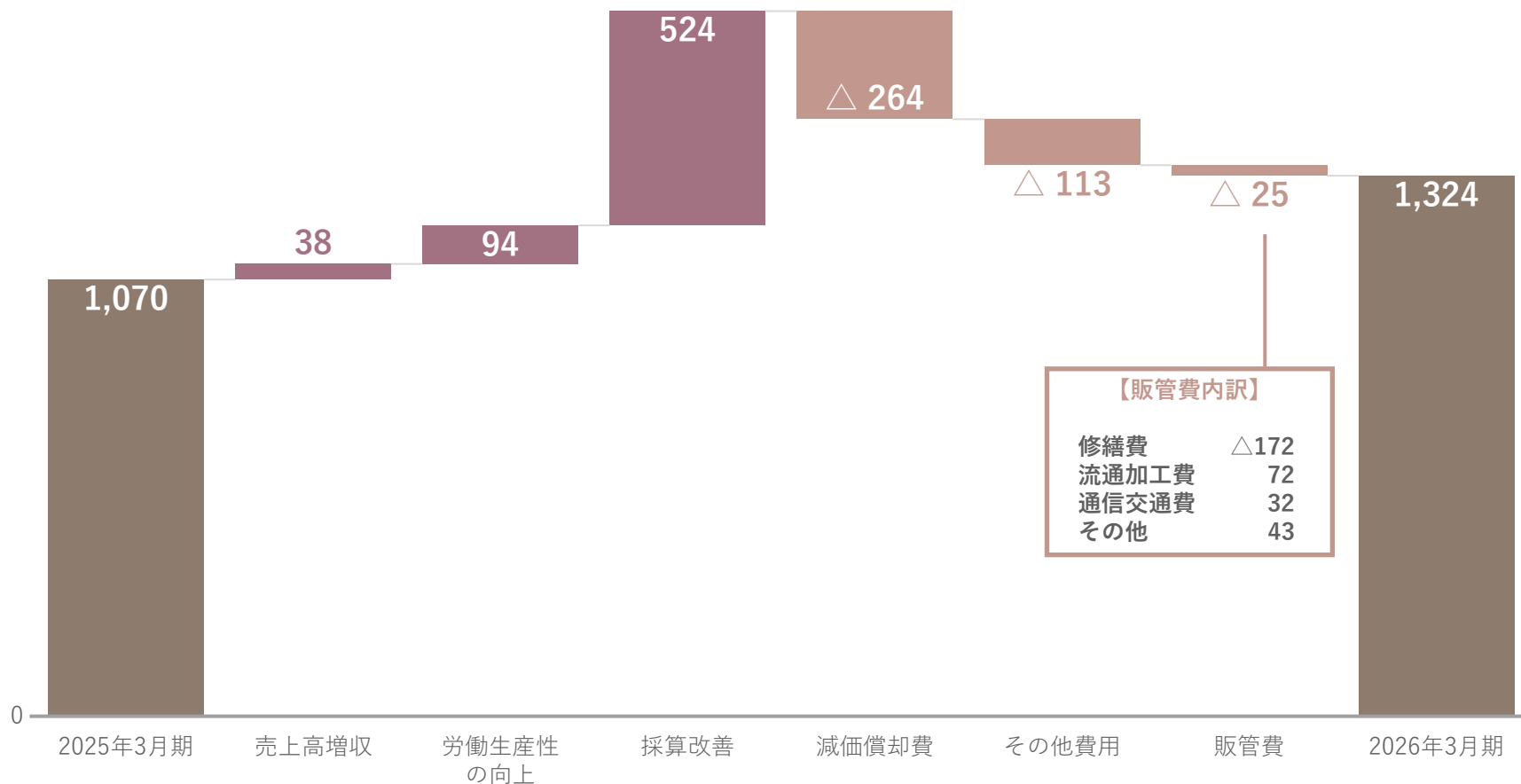
（単位：百万円）



営業利益増減要因分析（前年比）

- 商品の絞り込み、工場稼働率の平準化が一段とすすんだことにより生産効率が大きく改善
- 主力商品である中華まんの価格改定も寄与

（単位：百万円）



事業別の売上高・セグメント利益

- ❑ 菓子事業は、中華まんの通年販売が引き続き牽引、一方で戦略的に贈答用菓子を縮小しており、不採算商品の絞り込みにより減収となったものの、採算改善で増益を達成
- ❑ 食品事業は業務用食品における大手小売との取り組みの深化が奏功しており増収増益
- ❑ 不動産賃貸事業は一部店舗の賃料改定の影響もあり僅かながらの減収減益

(単位：百万円)		2025年3月期	2026年3月期	前年比	前年比伸び率 (%)
菓子	売上高	26,834	26,220	△614	△2.3
	セグメント利益 (利益率%)	2,545 (9.5)	2,673 (10.2)	+128	+5.0
食品	売上高	9,497	10,219	+722	+7.6
	セグメント利益 (利益率%)	453 (4.8)	644 (6.3)	+191	+42.1
不動産賃貸	売上高	917	913	△4	△0.5
	セグメント利益 (利益率%)	453 (49.4)	428 (46.9)	△25	△5.5

長期前受収益等が増加。自己資本比率は57.4%（前年62.1%）と高水準を維持

資産の部

(単位：百万円)	2026年3月期	2025年 3月期末比増減
流動資産	11,000	△202
売掛金	4,111	△258
商品及び製品 仕掛品 原材料及び貯蔵品	3,333	△307
その他流動資産	3,556	+363
固定資産	39,094	+6,787
有形固定資産	24,957	+582
投資その他の資産	13,663	+5,987
資産合計	50,094	+6,585

負債・純資産の部

(単位：百万円)	2026年3月期	2025年 3月期末比増減
流動負債	5,744	+1,268
未払金	1,471	+114
その他流動負債	4,272	+1,154
固定負債	15,598	+3,603
長期前受収益	9,694	+3,155
純資産	28,752	+1,714
株主資本	24,566	+322
負債純資産合計	50,094	+6,585

キャッシュ・フローの状況

- 現金及び現金同等物の残高は引き続き拡大
- 投資キャッシュフローは長期性預金の預入で支出増だったが、営業キャッシュフローは税引前当期純利益の拡大、長期前受収益の増加、減価償却費等で収入増、財務キャッシュフローは短期借入金増加による収入増でカバーした

(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期	増減	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	1,137	2,616	+1,479	
営業活動によるキャッシュフロー	5,165	6,192	+1,026	・ 減価償却費、長期前受収益の増加
投資活動によるキャッシュフロー	△654	△6,261	△5,608	・ 長期性預金の預入
フリーキャッシュフロー	4,512	△70	△4,581	
財務活動によるキャッシュフロー	△3,032	308	+3,341	・ 短期借入金純増によるもの
現金及び現金同等物の期末残高	2,616	2,854	+239	

2027年3月期通期見通し

新宿 中村屋

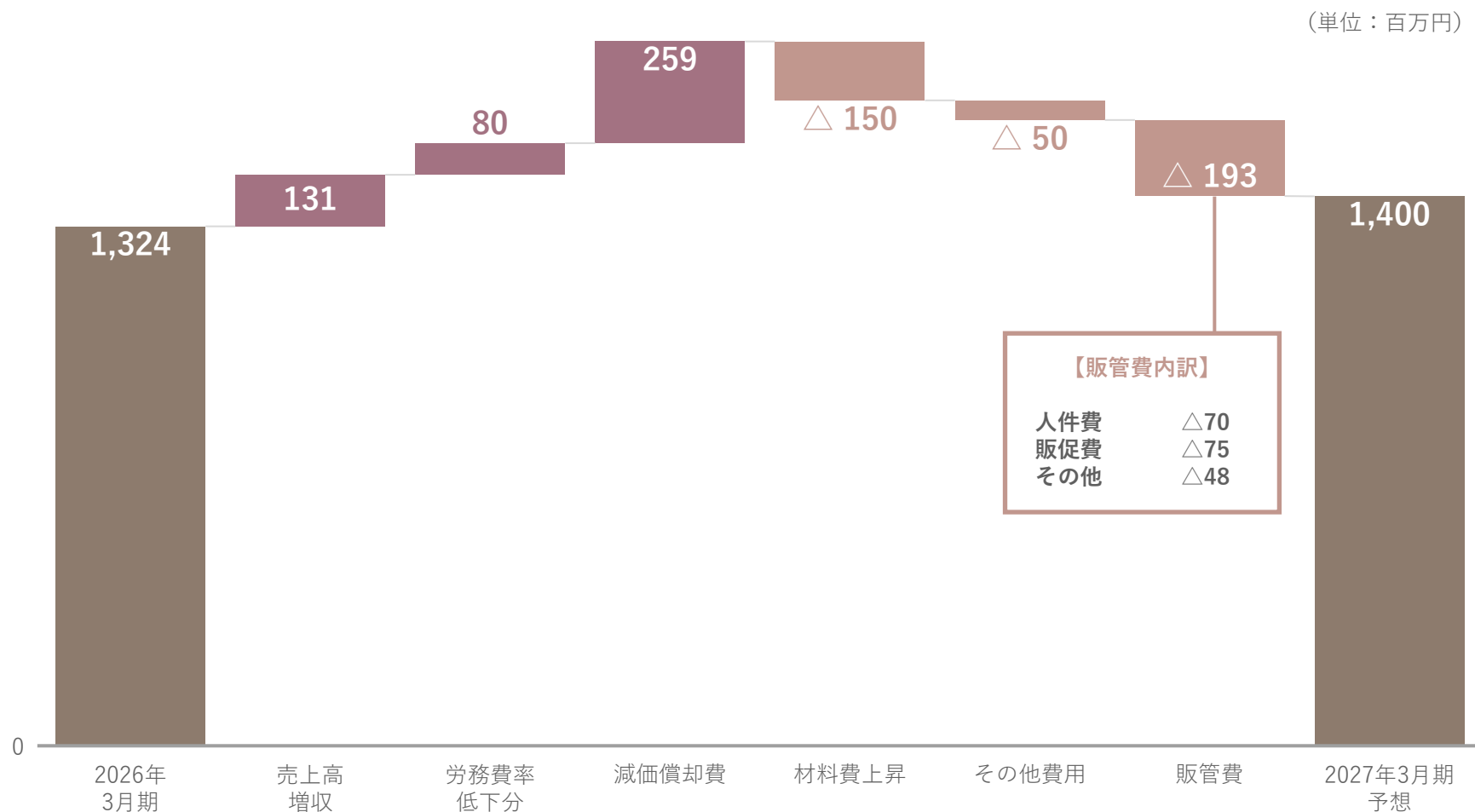
変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

- 前期から取り組んでいる商品および販路の絞り込みや主要取引先の販売期間短縮の影響による減収を、新商品や新事業の拡大で補い増収の確保を目指す
- 足元での地政学リスクに伴う原材料費や販売関連費用の上昇を厚めに織り込みながらも、不採算商品の削減や前期計上した一過性費用がなくなることにより、増益を確保へ

(単位：百万円)	2027年3月期予想	構成比 (%)	前年比 (%)	金額差異 (対前年比)
売上高	37,700	100.0	+0.9	+349
営業利益	1,400	3.7	+5.8	+76
経常利益	1,600	4.2	+0.1	+1
当期純利益	950	2.5	+3.5	+32

営業利益増減要因分析（予想）

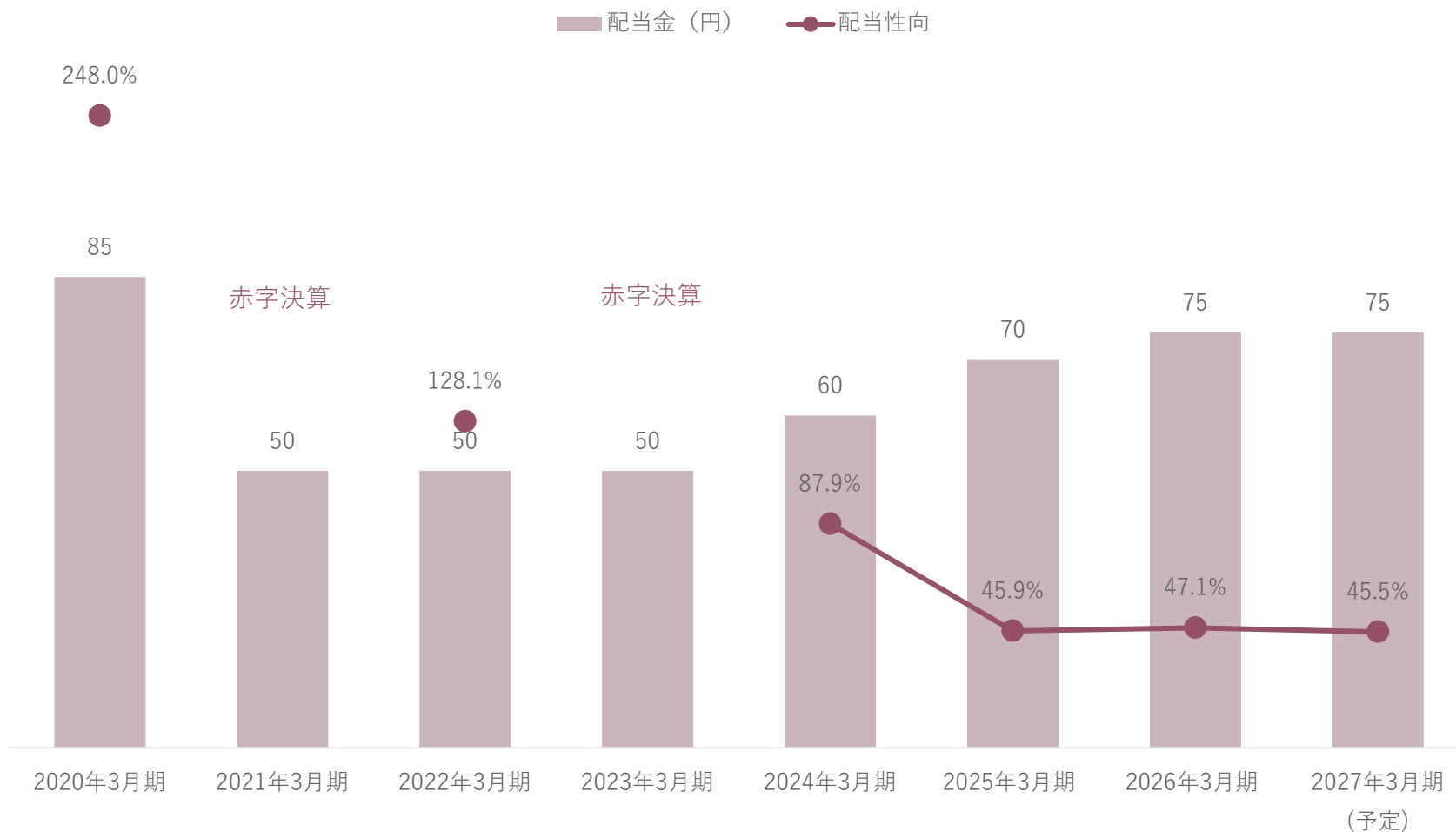
- 売上高による増収効果、一過性の減価償却費の消滅等により増益
- 不採算商品見直し効果は原材料価格の上昇で相殺されるとともに、賃上げ等販管費の増加を見込むなど、慎重な見通し



配当・株主還元策

■ 株主に対して長期にわたり安定的かつ継続的な配当を重視

■ 2026年3月期は増配、2027年3月期は利益ほぼ横ばい見通しから75円を据え置き予定



企業価値向上に向けた成長戦略・進捗状況について

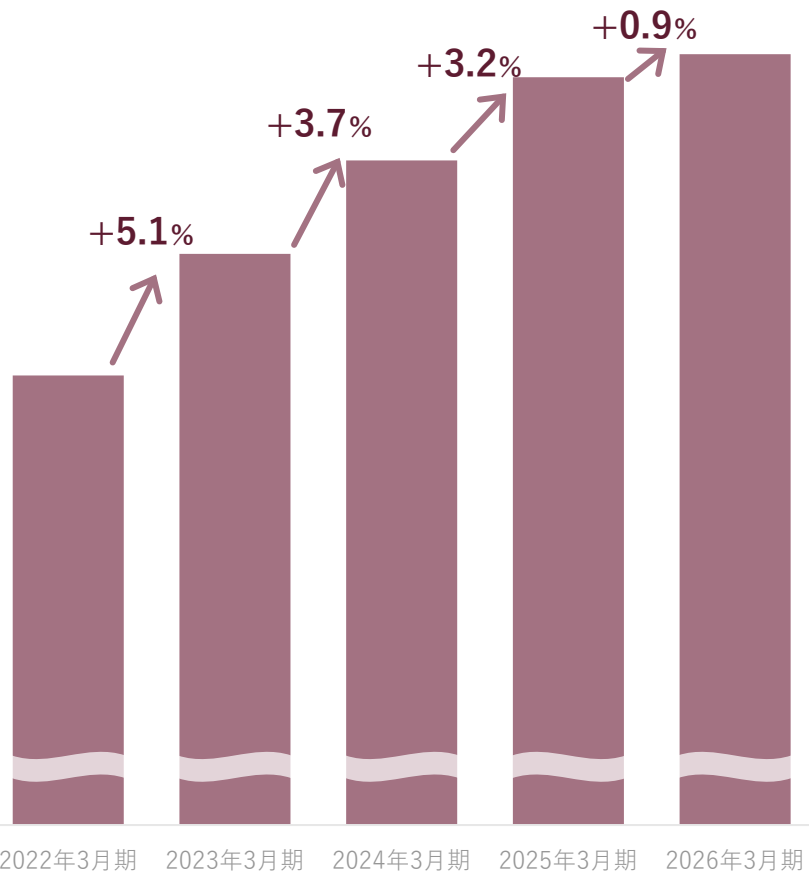
新宿 中村屋

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

- || コンビニエンスストア向け商品の拡充を図る
- || 共同開発に加え、販促も支援

販売の長期化を支援

コンビニエンスストア向け
売上高 (中華まんのみ) 推移 (前期比)



新商品の開発

夏場にも食してもらえる商品を
開発・提供



もっちり食感の
チーズベーグル

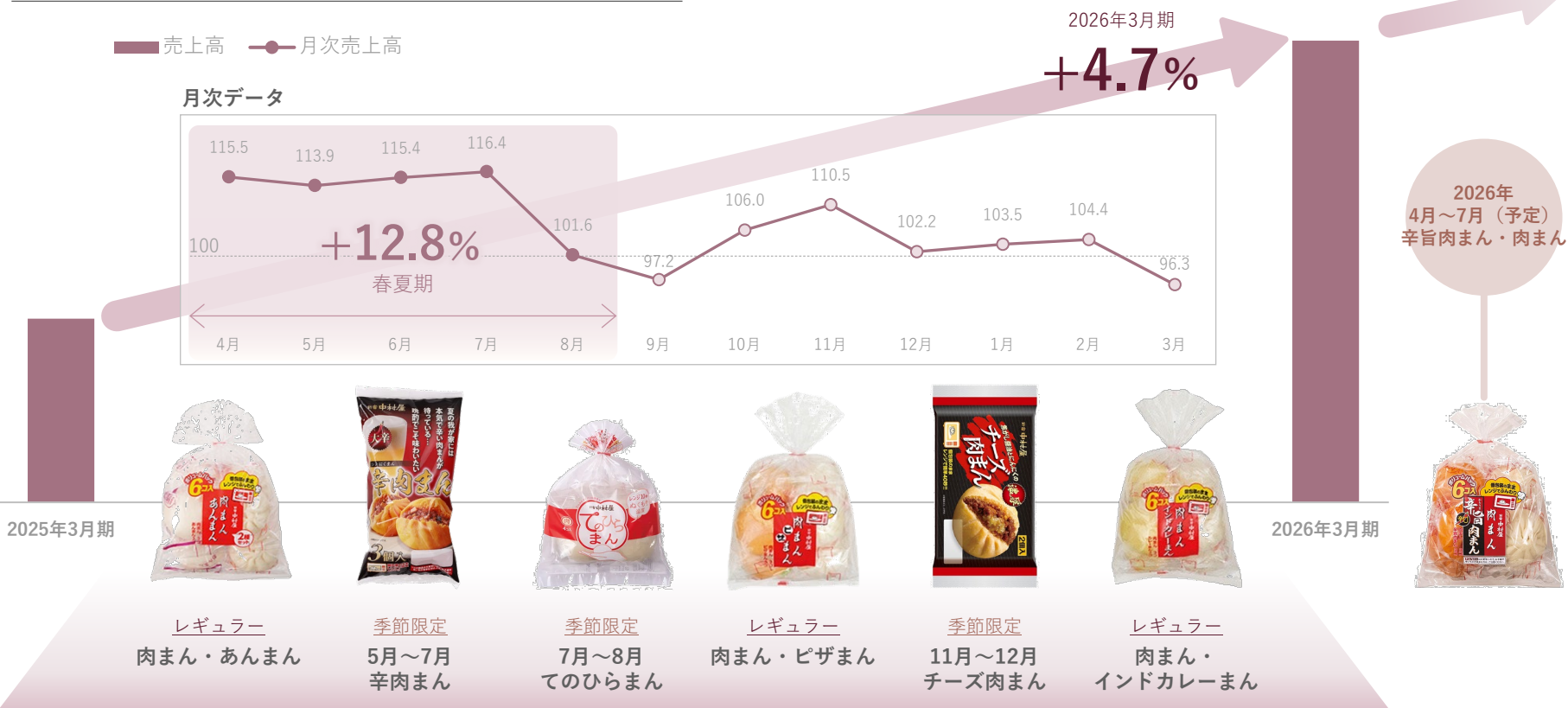
キャラクターとコラボレーションした
商品の提供

- || 春夏需要創造に寄与する商品を提供
- || 季節限定の商品を発売、年間を通じて中華まんの販売を実施

春夏需要喚起、新しい顧客層獲得のための取組み

季節性商品ではなく、年間を通じて食される食材として展開

スーパーマーケット売上高伸び率 (前年対比 単位：%)



- || 売れ筋商品に注力
- || 高付加価値商品の強化

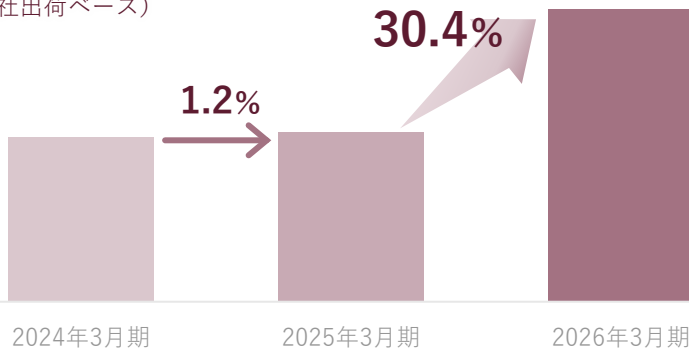
不採算商品を集約、生産性は大きく向上
 加えて、定番商品の更なる充実を図る



2026年2月発売

濃厚シリーズ売上高推移

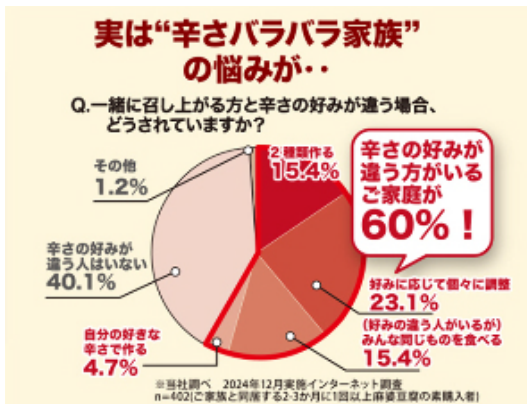
2024年のシリーズ発売より、売り上げ伸長
 （当社出荷ベース）



家庭内での辛さの好みの違いに対する悩みを解消



2026年2月発売



麻辣スパイスを加えるだけで、
 好みの辛さの麻婆豆腐を
 楽しめる製品を開発

|| 既存取引先との更なる深耕を目指す

レストランで培った調理技術を活かし、
中食・内食販路へ向けた開発・提案を継続して推進

コンビニエンス
ストアA社様

施策に対応したカレーの供給

会員制倉庫型
チェーンB社様

レトルト品+冷凍中華まん等を提供

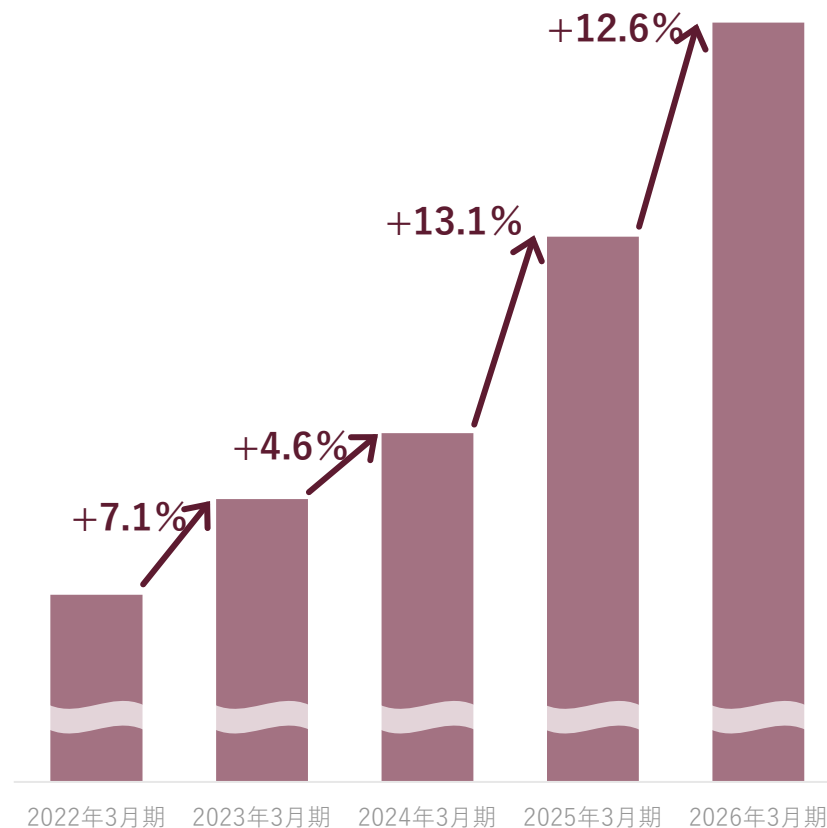
専門店小売り
チェーンC社様

プライベート商品のレトルトカレーを提供

喫茶チェーン
D社様

季節限定のコラボメニューの開発

業務用食品売上高推移（前期比）



|| デイリー菓子に注力

|| 品質にこだわった高付加価値商品の提供

専門店品質の本格的な
おいしさを追求し、
ブランド力による
シェア拡大を目指す



小倉粒あんもなか

こだわりの素材

小豆のうち
北海道産大納言小豆
62%使用

こだわりの製法

かご炊き製法

小豆をおどらせないで炊き上げる方法
落とし蓋方式を採用し、豆同志がぶつかって
破れたり壊れたりしにくくする

定番菓子の高付加価値化を強化

逸品どら焼き



抹茶どら焼き



こだわりの製法

ご飯炊き方式

小豆の「煮汁」をすべて
小豆の中に吸い込ませる
炊き方

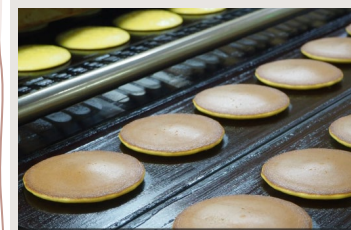
「新宿中村屋の本格どら焼き体験」

「どらやきの日」をきっかけに、中村屋のどら焼きの生地とあんこのおいしさを直接体験していただき、「専門店品質の本格のおいしさ」を身近に感じていただくことを目的に開催



雨の中たくさんのお客様に
ご来場いただきました

設備投資を実施
生産性が向上



中村屋ブランドの発信の場 こだわりの食を味わう

RESTAURANT Granna

新宿 中村屋

新宿中村屋本店で定期的に賞味会を開催



SWEETS DELICA Bon!na

新宿 中村屋

(食のショッピングフロア)

日本橋三越本店開催
あんこ博覧会®
2026/1/28~2/14



- || スープを提供する法人向けオフィス常設型の社食サービスを開始
- || BtoBチャンネルを本格的に展開

福利厚生、健康経営の取り組みの一環から導入企業が増加
2026年度の税制改正で食事補助の非課税枠が倍増



日本食糧新聞社主催
第1回災害食アワードアイディア部門入賞



2025年11月
4品目でスタート

<クラムチャウダー> <ミネストローネ> <ポルシチ> <ビスクスープ×玄米>

2025年12月
2品目追加

<スープリューン> <オニオンスープ>

2026年2月
2品目追加

<豚汁> <胡麻担々スープ>

家庭用レトルト食品など14品目の価格改定を実施

<p>実施時期</p>	<p>2026年5月</p>
<p>改定率 (想定価格)</p>	<p>+11.5~11.8%</p>
<p>対象商品</p>	<ul style="list-style-type: none"> レトルトカレー・ハヤシ・シチューの一部商品 調理用ルウ など14品目 

125年以上の歴史をもつ、レストランも展開する食品会社

会社名	株式会社中村屋
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿三丁目26番13号
創業年月日	1901年12月30日（創業125年）
代表取締役社長	島田 裕之
資本金	74億6,940万円（2026年3月末現在）
業績	売上高：373.5億円 営業利益：13.2億円（2026年3月期実績）
証券コード・上場取引所	2204：東証スタンダード
従業員数	780名（2026年3月末現在）
主な事業内容	和洋菓子、パン、食品の製造・販売、レストラン経営
主な事業所	東京事業所、神奈川工場、埼玉工場、つくば工場、武蔵工場 等

『真の価値を追求し、その喜びを分かち合う』

創業者の信念を受け継ぐ

■ ミッション

お客様に対して

独自性を磨き、どこよりもおいしい商品を提供することで、感動と笑顔をお届けする

従業員に対して

ひとりひとりが覚悟と熱意をもって仕事に挑戦し、成長することで働く喜びが生まれる風土をつくる

社会に対して

持続可能な社会の実現に貢献し、ステークホルダーとの信頼を築く

■ ビジョン

中村屋は、創意工夫と挑戦で、
これからの暮らしに溶け込む、喜んでもらえる食を提案する

■ 中村屋の約束（ブランドステートメント）

新宿 中村屋 変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

IRお問い合わせ先

広報・CSR部

TEL

03-5325-2733

E-mail

csr_ir@nakamura.co.jp

新宿中村屋

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日、現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な不確定要素により異なる場合がございますことをご了承ください。